学部　中学部	執筆者
単元及び題材名 　時計の学習　～短針が正時同士の中間にあるときに何時台かを考えよう～	
授業名（主たる教科領域） 　国語・数学	
対象学年・グループ 　国語・数学IIIグループ　Cグループ	

使用機器及びアプリの名称とその特徴	
デジタル教材『時計の学習』	熊本市教育センターICT支援室が作成した教材
iPad	デジタル教材『時計の学習』の活用のために使用
appleTV	無線でiPadの画面を大型テレビに映し出すことができる

使用機器及びアプリの選定理由

　『時計の学習』の教材は、ボタンをクリックすることで時計の文字版に分（ふん）の数字が表示されたり、現在の時刻「〇じ□ふん」が表示されたりする機能があるため、グループの中でも個々の生徒の理解度に合わせて表示を変えながら学習ができる。また針を進めることで、時間の経過と合わせて画面下の帯グラフのゲージが前後したり、太陽の位置や昼と夜の明るさが変化したりするなど、目で見てわかりやすいため、時間の流れのイメージをつかみやすいという特徴がある。これらの利点をいかして時刻の理解や生活の中で時計や時間を意識できるように、この教材を選定して学習に取り組むこととした。

●指導内容

＜ねらい＞
・２時と３時の間など時針が中間地点にある時に、〇時台であることが分かる。
・自分でデジタル教材の時計の針を動かすことで、針の動き方（方向や長針・短針の速さの違いなど）を理解することができる。
・時間とその時の様子（空の明るさなど）のイメージをもつことができる。

＜内容（使用方法・指導の工夫点）＞
①１２時から分針を６０分ずつ進めて、「１時」「２時」など正時を確認する。
②正時から分針を一定時間進め、正時の中間地点で止めたところで生徒に何時台であるかを質問する。はじめは「２時５分」「２時１０分」など、なるべく「２時台」であることが分かりやすい問いを出すようにする。
③生徒からの答えを聞き、「じかん」のボタンをクリックして時刻を表示する。

[じかん]を押して時刻表示

[ふん]を押すと、文字盤に分の数字が表示される

●指導の効果・今後の課題

・テレビに文字版を大きく表示し、正時の地点から分針を少しずつ進めたことで、何時台であるのかが理解しやすかった。
・時刻は非表示にもできるため、生徒にとっては注目すべき場所などが分かりやすかった。
・時刻に合わせて、空の明るさなど実生活と結び付けた学習を展開するまでには至らなかった。朝・昼・夕方・夜などの概念と合わせて生活に結びつけていく学習を今後行う必要がある。